

津波防災、地域活性化両立へ

吉田町「シーガーデン」推進委始動

吉田町は、津波防災対策とにぎわいづくりを両輪で進める「シーガーデンシティ構想」を深め、具現化させるため、町内各種団体や自治会の代表者、有識者らでつくる推進委員会を立ち上げた。防潮堤を兼ねた海拔10メートルの多目的広場の整備が先行する中、広場を含む川尻海岸の利活用計画案などをまとめる。委員は15人で、任期は2年。国交省静岡河川事務所の稲葉傑所長らも加わった。都市計



吉田町の景観の特徴を調査に基づき説明する静岡文化芸術大大学院の学生＝同町役場

画に明るい静岡文化芸術大の寒竹伸一副学長が委員長に就き、4日の初会合で「この町にしかない空間構想をつくり上げていきたい」と抱負を述べた。寒竹研究室の大学院生たちも事務局の一員として関わり、町の景観について特徴を説明した。

県の第4次地震被害想定で同町は、最大9メートルの津波が来るとされる。一方で町は「千年に一度の大津波」も食い止め、人的被害を出さないことを津波防災対策の目標に掲げる。町は2016年、吉田漁港の近くで多目的広場の土台づくりを開始。広場の面積は約2・6畝で、既に海拔10メートルまで盛り土が完了し

ている。広場東側に位置する川尻海岸の国直轄部分では18年度、防潮堤の裏側を海拔11・5メートルにする盛り土工事が新たに始まる。完成すると、吉田漁港と県営吉田公園を結ぶ「海浜回廊」が生まれる。(榛原支局・佐藤章弘)

町はこれまで、多目的広場のイメージとしてイベントスペースや特産品の販売施設などを挙げてきた。委員会には広場の活用を検討する作業部会も置き、具体案を詰めていく。